

様式第 2 号

視察研修先	和歌山県橋本市	氏名	野口 康一郎
視察研修項目	農業振興条例について		
【視察先概要】 橋本市は、和歌山市の北東端紀伊半島のほぼ中央に位置し、和歌山市や大阪市の中心部への距離は共に約40kmで交通のアクセスもよい便利な街。南にある世界遺産・高野山の玄関口となっている。平成18年に近隣自治体と合併し現在の橋本市が誕生した。現在の人口は約6万人。特産品は柿・たまご・パイル織物・手作りのへら竿。 【視察内容】 条例は農業及び農村を市民とともに守っていくという意識改革を行うため、農業において、「市民」「農業者」「行政」それぞれの役割を定めたもの。また、関連する補助金についても多数定めている。 【所見・感想】 橋本市の農業振興条例は令和3年4月から施行されたもので3年が経過している。高齢化や人口減少による後継者不足を解決し基幹産業を守ろうとする行政の思いが詰まっていると感じた。補助金の数が12あり、とても充実している印象。県の補助金に上乗せしていたり、県の補助金に対応していない農家を支援するための補助金を新設したりときめ細かい印象を受けた。販路開拓のための補助金「橋本市農産物等インターネット販売促進事業」「橋本ふるさと便事業」は橋本市産の野菜や果物を買っていただいた方々への「送料」や「手数料」を市が負担するとの事で1億円かかったとの事。今までふるさと納税やECサイトでの販売をしたことのない方でも始めやすいのではないかと感じた。様々な補助金があるが残念ながら利用者がいない補助金もあるとの事。農家からの意見を取り入れて反映していくとの事。 昨年の行政視察で訪問した群馬県高崎市でも話になった「クビアカツヤカミキリ」に橋本市も悩まされているようだ。サクラやモモ、ウメ、スモモなどのバラ科樹木に寄生し、幼虫が内部を食べて枯らしてしまう外来のカミキリムシで、被害が拡大しているとのこと。近年の温暖化の影響でいずれ山形にも入ってきてしまう可能性があるとのことで農家にとっては深刻な問題だと言える。地方自治体だけで対応するには限界があるように感じるため国策として対応していかなければならない問題なのではないかと思った。 本市でも「さくらんぼのまち寒河江推進条例」が施行された。中身はこれから充実していくものとなるのだろうが、近年の温暖化でさくらんぼの産地としてふさわしい場所なのかどうか問われてきそうである。今現在の農家や基幹産業を守ることは必要だが当事者よりも市民の方をどう巻き込むかが課題なのではないだろうか。			

様式第 2 号

視察研修先	和歌山県紀の川市	氏名	野口 康一郎
視察研修項目	フルーツツーリズムについて		
【視察先概要】 紀の川市は平成 17 年に近隣 5 町が合併し誕生。和歌山県の北部に位置し、大阪府との県境にあり街の中央を紀の川が流れている。人口は約 6 万人。ブランド桃の「あら川の桃」をはじめ、いちじく、柿、イチゴ、キウイフルーツ、はっさくなど果物の生産量・品質が日本でもトップクラス。農産物の直売所には隣県や県内から多くの方が果物を買いに来店するとの事。 【視察内容】 市が発起人となった、フルーツに焦点を当てた観光振興事業。新商品開発やフルーツ狩り体験など様々な事業を行う。主体組織を法人化し、全国初となる大型のフルーツ体験型博覧会を開催。 【感想・所見】 様々なフルーツの産地として農産物の販売を主にしてきたが、今までは販売だけになってしまっていたのを大都市圏の方々をターゲットとした体験型観光にシフトする事を推進し、地域づくり・生業おこしを展開しているとの事。誘客の仕掛けを自治体からだけではなく市民の方々からも参加していただき自らが考えて実行出来るように実行委員会を開催し市民の参加を呼びかけて運営体制を構築している。 実行委員会ではグループに別れて、「料理」「体験」「商品」「学び」それぞれのテーマにあった果物にちなんだ商品開発を行ったとの事。料理ではフルーツソースを活用した「甘酒」や「かき氷」、体験では「果物狩り」や「ボールペンづくり」、商品では桃のエキスを配合した「ハンドクリーム」、学びでは「フルーツツーリズム検定」「市内観光施設を巡る体験ツアー」など様々な観光体験が出来るものを企画開発し、年に一度市内の各所で体験会イベント「ぷる博」を開催しているとの事。今年で 8 回目。 市民を巻き込むことで地域活性化を自分事に捉えてもらえるようにしていることはとても大切だと改めて感じた。寒河江でもそうなってもらいたいと思う。ただ、話を聞くと一般の方々が積極的に参加してくださるのはやはり難しく、どうしても人を集めるには各種団体をお願いして参加していただける方を探しているとのこと。イベントで地元を盛り上げたいと思うが結局お手伝いをしてくれる人間は限られてきて固定化してくるというのはこの地域でも同じ事なのだと感じた。固定化してしまうと実行出来ることが限られ、結果、長続きしないと感じる。そのようなことにならないようになるべく沢山の方々から参加していただき街全体として盛り上げていくことを考えていかないと本当の地域活性化にはならないのではないかと感じた。			

様式第2号

視察研修先	和歌山県和歌山市	氏名	野口 康一郎
視察研修項目	リノベーションまちづくり事業について 官民連携による稼げる空間リノベーションについて		
【視察先概要】 和歌山市は県の北西部にあり、大阪府との境の場所に位置している。県庁所在地で人口が県内最多の都市で中核市となっている。江戸時代には徳川御三家の一つである紀伊徳川家が治める和歌山城の城下町として栄える。人口約35万人。和歌山ラーメンと早なれ寿司が有名。 【視察内容】 官民連携で遊休不動産及び公共空間の利活用を行う。また、まちづくりの担い手育成も図り、その結果、民間自立型のまちづくり会社が設立されるなどした。 【感想・所見】 人口約35万人の都市である和歌山市でも人口減少は大きな課題になっている。「ぶらくり丁」と言われる中心商店街がシャッター通りになってしまっていることは残念だと思った。郊外に大型のショッピング施設ができると人はどうしてもそういった所に流れてしまうのはどこも変わらず、大阪府が近い為に人口の流出に繋がってしまっているようだ。 まちなか再生に向けたプロジェクトとして大学の誘致をはじめ、公共施設の再編、市街地再開発事業、リノベーション事業など様々な施策を推進されていた。小中学校を統廃合した跡地の利用に大学を誘致するなど、今後寒河江でも起こりうる学校跡地の利用について参考になった。 特に気になったのがリノベーションスクールの開催だ。遊休不動産をどのように再生していくかを受講生皆で考えて学ぶ事ができるものだ。参加者が事業主だけではなく大学生から会社員まで参加しているとのことで、2013年以来10回開催されていて、260名が受講しているとのこと。関心の高さが伺える。スクールで提案されたプランが実際に行動に移りしっかり実現していることが素晴らしいと感じた。「絵に描いた餅」になることなく、新たに商売が生まれていることを寒河江でも実現したいと感じた。 家主と借主の間を取り持って物件の運用をサポートするという重要な役割を果たしている「家守会社」が6社設立していることと、担当課である都市再生課の方々の遊休不動産の家主さんとの入念な交渉の内容にも驚いた。シャッター通りが少しでも減りお店が開いている状態を作ることがどれだけ大切なのかを学んだ。街中を人々が歩いて回遊できる仕組み作りが重要だと思う。やはり、官民の連携は大事だと感じた。			

様式第2号

視察研修先	和歌山県有田市	氏名	野口 康一郎
視察研修項目	有田市農業次世代人材投資事業「AGRI-LINK IN ARIDA」について		
【視察先概要】 和歌山県の北西部に位置し、和歌山市から電車で南に約40分。有田川を中心に南北をミカン山に囲まれ、海岸線には臨海工業地帯が形成されている。人口は約2万5千人、農家の世帯数は約1000件。有田ミカンが有名で農家の97%がミカン農家。太刀魚の漁獲量も日本一。蚊取り線香発祥の地。 【視察内容】 有田市がリクルートと協働して実施する就農支援の仕組み。新規就農者、農地提供者、受け入れ農家それぞれがメリットを享受できる特徴がある。 【感想・所見】 最寄りの駅に着くと見えるミカンの木がかなりの急斜面に沢山あるのが印象的。斜面を見ただけで、高齢になるほど農業をするのが大変なのではないかと感じた。実際、有田市も農業・経営をしている方の大半が50歳以上の方々ばかりで後継者問題が深刻となっているようだ。基幹農業であるミカン農家を守るため、リクルート社と包括連携協定を結んだ。担当するミカン課の職員が農家を一軒一軒回って現状を把握し、農家を集めて現状を皆で共有していることは素晴らしいと感じた。現在の自分たちの置かれている状況やこのままでは今後どのようなようになってしまうかを就農者、農地保有者、地域農家、3者の立場からそれぞれが抱える課題とそれぞれが持つ資産を共通の認識として持ち、皆で協力していくことが大事だと感じた。 課題としては、受け入れ先のマッチングが難しいと伺った。以前、寒河江市農業担い手の会の皆様と意見交換を行った際は、寒河江においても、就農したいが理想の土地がなかなか見つからないとの話があった。農地を貸してくれる方はいるのだが、場所が遠かったり作業しにくいような場所であったりとなかなか自分たちが思い描くような場所ばかり借りることができるわけではないようだ。マッチング次第で上手く就農に繋がるかが決まるようなのでとても重要だと感じた。また、意見交換では、相談する窓口が多くあり、どこに相談したら良いかわからなくなるとの話があった。就農したいとやる気のある方が、書類の手続きなどが煩雑なため諦めてしまう事のないようにしっかりサポートしなければならないと感じた。 この度の視察で感じたのは、行政職員の方々の熱量の高さだった。困っている方に寄り添い一生懸命に動いておられるのを、説明の端々で感じた。寒河江でもそういった動きが多くなって欲しいと感じた。			